

研究課題(実践する授業情報)

○タイトル ウィーン分離派(Wiener Secession)と板東俘虜収容所のデザインについて

○実施学年・クラス 3学年 309HR

○実施教科 デザイン史(工業科・3年総合デザインコース)

× 歴史総合(地歴公民科・1年)

仮説(育成するチカラ)

A【研究を深める力】	① 方眼ノートなど論理的思考力を養う教材を用い、科学的思考法に基づいた探究活動を行うチカラを育成する。	○
	② 先端科学技術へのアプローチとなる内容に取り組み、イノベーションを生み出すチカラを育成する。	
	③ 防災や再生エネルギー、食糧問題など、地球的課題の解決に向けた研究するチカラを育成する。	
B【研究を拓げる力】	① 専門教科や理数系教科どうしの分野横断型学習を実施し、課題研究のテーマ設定を主体的に行うことができる、思考するチカラを育成する。	
	② 人文科学系教科も含む分野横断型学習を実施し、生徒の視野が多角的に拓がることで、現代社会の諸課題について気づき、解決に向けて考えるチカラを育成する。	○
C【研究を協働する力】	① グループ協議や共同作業を含む実習を伴う授業を実施し、他者と協働して課題解決に向かうチカラを育成する。	
	② 科学英語の学習など、国際的にコミュニケーションを行うチカラを育成する。	
D【研究を見出す力】	① 社会課題や地域の課題などを題材として、実社会のあらゆる問題から課題を見つけ、その解決に向けた研究を行うチカラを育成する。	○
	② 他の研究機関など多様な研究主体との協働やそれらにおける研究を参考として、教科書の枠を超えた高度で先進的な題材をもとに、新たに課題を見出すことのできるチカラを育成する。	

研究内容(実施する授業の内容)

○教材 ・ワークシート(方眼ノート) ・パワーポイント資料

○使用教科書等 ・『高等学校用 デザイン史』(文部科学省)
・『新課程版 歴史総合』(実教出版)

○授業形式および時数 座学／1時間

○単元の目標

- (1)第一次世界大戦期の国際状況と板東俘虜収容所に関連する地域の状況について理解させる。
- (2)ウィーン分離派の成立過程とその意義、アート性の特徴などについて理解する。
- (3)板東俘虜収容所の印刷物のデザインとウィーン分離派のデザインの類似性について理解し、なぜこのようなことが起こったかを考えさせる。

○評価の基準(上段:地理歴史、下段:デザイン)

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
・第一次世界大戦期の国際状況と板東俘虜収容所に関連する地域の状況について理解している。	・板東での捕虜の取扱いのあり方から、日本の国際社会での立場について考えている。	・ワークシートを活用し、気づきや自らの考えをまとめている。
・ウィーン分離派の成立過程とその意義、アート性の特徴などについて理解している。	・板東と分離派のデザインの類似性について理解し、どうしてこのようなことが起こったかを考えている。	

○授業の展開

	学習活動	指導上の留意点	評価基準・評価方法
導入 (5分)	・板東俘虜収容所関係資料 4KPR 動画を視聴し、地域における板東俘虜収容所のもつ意義を理解する。	・動画資料について、板東の記憶が元捕虜、地域住民にとって大事にされた喜田ものであることを補足説明する。	【主体的態度】 動画を視聴する態度 視聴後の感想等
展開 (35分)	・板東俘虜収容所の実態について理解する。 ・分離派の代表的作家の作品について理解し、その特徴を捉える。 ・板東の印刷物と分離派作品のデザインの類似性について理解し、その理由について考える	・板東での捕虜取扱いが収容所職員や地域住民の支えのなかで実現されたものであることを説明する一方で、国際社会の中での日本の立場を考慮した国策であった側面にも触れる。 ・伝統派との対立の上で分離派が成立したという過程を説明し、分離派が目指した姿について考えさせる。 ・両者の類似性がどうして生まれたか、制作者の思いの部分について触れ、時代背景なども加味しながら考察させる。	【知・技】 【思・判・表】 ワークシートの記述 【知・技】 【思・判・表】 ワークシートの記述 発問への解答
まとめ (10分)	・資料に込められた捕虜の思いについて考える。	・良い話で終わりがちな板東の話に対して、戦争の悲劇的な側面について触れ、考えさせる。	【思・判・表】 ワークシートの記述 発問への解答